

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：社会福祉諸費

事業名 災害ボランティア事前登録システム構築事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 福祉人材係 電話番号：058-272-1111(内3447)

E-mail：c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 400 千円 (前年度予算額： 400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	400	200	0	0	0	0	0	0	200
要求額	400	0	0	0	0	0	0	0	400
決定額	400	0	0	0	0	0	0	0	400

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

大規模災害時には、各被災地に支援に来られる災害ボランティアの規模も大きくなり、被災市町村の社会福祉協議会が設置・運営する災害ボランティアセンターでの受付時に、ボランティアが集中する傾向にある。ボランティアセンターを効率的に運営するためには、一人ひとりの手続き時間の短縮や集合時間の分散等が必要である。また、災害ボランティアセンターの受付において、多数のボランティアで混雑し、人と人との距離が近くなる恐れがあるため、新型コロナウイルス感染症対策としても、混雑を解消する必要がある。

(2) 事業内容

被災市町村の社会福祉協議会が、災害ボランティアセンターの受付を円滑に行い、ボランティアの待ち時間を減らすため、また、感染症対策の観点から令和3年度に構築した、必要事項の登録やセンターでの受付時間の設定等が事前に可能となる「災害ボランティア事前登録システム」を運用する。

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県地域防災計画には、ボランティアの活動しやすい環境づくりや、災害ボランティアの登録について、県が実施責任者の一つであると規定しているため、県が費用を補助することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	400	災害ボランティア事前受付システムの運用
合計	400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・ 第四期県地域福祉支援計画

第4章 施策の内容

3 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保及び福祉従事者に対する研修体制の整備

(2) 国・他県の状況

令和2年7月9日付け、内閣府防災担当からの「効果的な災害ボランティア活動を行うための地方公共団体と地域の社会福祉協議会との連携促進について」の通知で、ボランティアの募集にあたっては、本人の健康状態の告知など、参加の条件を予め周知・徹底することなどが示された。

(3) 後年度の財政負担

災害時に速やかにシステムを活用するため、年間使用料が発生する。

(4) 事業主体及びその妥当性

岐阜県社会福祉協議会が事業主体で、災害ボランティアセンターを設置・運営し、ボランティアを受け入れるのは市町村社会福祉協議会である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

市町村社会福祉協議会が「災害ボランティア事前登録システム」を活用することで、大規模災害時の災害ボランティアの受付を円滑に行うことができるようにする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①事前登録システムを活用する市町村数	0	42	42	42	42	100%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	災害ボランティア事前登録システムを構築し、市町村社協に対し、操作研修を実施した。 また、システムが正常に作動するかを確認するため、運用訓練を実施した。
	指標① 目標：42 実績：42 達成率：100 %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 3	被災者の多様なニーズに対応するためには、多くのボランティアによる支援が必要であるため、ボランティアを円滑に受け入れることは重要である。また、新型コロナウイルス感染症対策として、受付における密状態の回避は非常に重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	県内市町村社協に対し、使用方法の研修を行い、発災時に使用できる状況が整ったため、期待通りの成果をあげている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 1	システムの保守運用は、発災時に県内市町村社協と速やかに連携が取れる県社会福祉協議会が担っており、効率的な運用を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 発災時の運用がまだできていないため、予期せぬエラーが出た場合の対応が課題である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 災害時に適切に運用できるよう、システムの維持管理を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	